

日本軍「慰安婦」問題の正義ある解決世界行動及び第 1212 回日本軍「慰安婦」問題解決のための定期水曜集会声明文

1991 年 8 月 14 日キム・ハクスンさんが日本軍「慰安婦」犯罪を勇気をもって告発した後、1992 年 1 月 8 日から始まった水曜デモが 24 年間希望の歴史をつむいで今日 1212 回目となった。日本軍「慰安婦」問題解決のための定期水曜デモは過去 24 年の間、被害者が声をあげ、人権と平和を願う民衆の闘いとして、またすべての戦争に反対し、女性に対する暴力の廃絶を求める世界市民の連帯の章づけであった。2011 年 12 月 14 日、1000 回水曜デモを迎え幾多の市民の連帯と参加を通じてこの場に建てられた平和の碑(平和の少女像)はこの正義のある闘いを証言するものである。

去る 12 月 28 日韓日両国外相会談合意は 24 年という歳月の間水曜デモで訴えて来た日本軍「慰安婦」被害者の要求を無視したまま、政治的合意と談合で終わってしまった。日本軍「慰安婦」問題解決は日本軍が組織的にほしいままにした軍隊性奴隷問題に対して日本政府がその犯罪事実を明確に認めることから始まる。これによって国家的で法的な責任を受け入れて履行してほしいということがまさに被害者の正当な要求である。しかし犯罪に対する具体的言及はなくなって責任認定さえ曖昧な今回の合意を韓日両国政府は「最終的及び不可逆的に解決されることを確認」と妥結してしまった。

被害者の声は盛られなかったこの合意をもって、韓国政府は日本軍「慰安婦」被害者の名誉と人権回復のための措置だったと厚かましい言葉を吐き出している。今この瞬間までも被害者の訴えは忘れられたまま合意を受け入ると要求し突き放すという脅し文句も躊躇しない。日本政府は合意発表が終わるやいなやこの合意が賠償や法的責任ではないと釘をさし、今後謝罪はしないということを躊躇なく言っただけのけた。日本政府の真意がどこにあるのか不明な合意であったがゆえにそぞろしい結果となった。今後、国際社会での日本に対する批判の自制を約束して日本軍「慰安婦」問題の解決が成り立ったとする韓国政府の姿に被害者の絶望はさらに深くなるだろう。

ここに集まった私たちは日本軍「慰安婦」問題を単に政治的談合で終わらせてしまおうとする韓日両国政府の交渉が被害者の傷をさらに広げる加害行為であると規定する。したがってこの合意を受け入れることができない。日本政府の真正なお詫びと法的責任認定を要求する被害者とともに日本軍「慰安婦」問題の正義ある解決を要求する世界連帯行動をここに宣言する。

すでに韓国の大学生や市民は稚拙な 12.28 合意を糾弾し、平和の碑を守っている。また各界各層の良心的市民社会の声も広がりつつある。海外各地でも連帯行動を通じて今日私たちのこの宣言への共感を示している。私たちは日本軍「慰安婦」被害者の声を伝える蝶となって国境を越えて世界各地にこの合意の不当性を知らしめ、必ず被害者が受け入れることができる正義ある問題解決のために力強く進むつもりである。わたしたちは力強い決意をもって以下を要求する。

■ 韓日両国政府は 12.28 合意を撤回し、被害者の要求にそった問題解決のための再協議を実施しろ。

■ 日本政府は被害者の意をくんだ第 12 回アジア連帯会議の提言どおり日本軍性奴隷犯罪に対する国家的/法的責任を認め、これによって賠償と真相糾明及び再発防止、歴史教科書への記述等を履行せよ。

■ 韓国政府は被害者の権利を踏み付けた 12.28 合意を全面的に見直し、被害者が納得できる解決策の用意のために積極的に動け。

■ 国際社会に対し日本軍「慰安婦」被害者の人権と名誉回復による問題解決実現のための連帯を求める。

■ 私たちは日本軍「慰安婦」問題の正義に基づく解決に先立ち、被害者の人権と名誉回復のため積極的に行動することを確認する。

2016 年 1 月 6 日

日本軍「慰安婦」問題の正義ある解決世界行動及び第 1212 回日本軍「慰安婦」問題解決のための水曜デモ参加者一同